

# 平成28年度 学校関係者評価報告書

学校名：東海工業専門学校金山校

## 1 学校目標

- ・教職員の質の向上と教育職員の意識の活性化
- ・社会貢献のための新たな事業の検討
- ・国際化の取り組み
- ・広報力の強化
- ・経営の効率化
- ・目標、プロセスの見える化の推進

### 学校目標に対する評価・意見

- ・前年度の反省を踏まえ、細かく目標が定められている点は高く評価できる。
- ・在学期間中は師弟関係であることが東海工業専門学校の伝統であり、他校にはないところだと思う。
- ・建設業のイメージアップを図ることによって、昔の3Kのイメージを払拭できて評価できる
- ・高校の先生方との信頼関係が増大する事は、今後の学生を確保する上で良いことだと思う。
- ・広報力の強化での新しいホームページや職業理解スペシャルサイトなど、業界への希望者発掘は良いと思う。
- ・留学生の増加に対して、言葉の問題をどう対処するかを教えていかないといけないと思う。
- ・国際化の取り組みについてモンゴル建設訓練学校の開設、留学生在籍10%を目指されることに期待しています。

## 2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
(1) 教育理念・目標	3.8	3.6	3.6
(2) 学校運営	3.4	3.4	3.6
(3) 教育活動	3.8	3.8	3.8
(4) 学修成果	4.0	3.8	4.0
(5) 学生支援	3.8	3.8	3.8
(6) 教育環境	3.8	3.8	3.8
(7) 学生の受入れ募集	3.6	3.6	3.4
(8) 財務	4.0	4.0	4.0
(9) 法令等の遵守	4.0	4.0	4.0
(10) 社会貢献・地域貢献	3.0	3.0	3.2
(11) 国際交流	3.2	3.2	3.6

### 3 今後の改善意見

- ・本年度目標を達成することが、中・長期的計画及び展望にどのような関わっていくのか、明確にしたほうが良いと思う。
- ・長期的ビジョンが十分に視聴化されていないように思う。
- ・自己評価報告書の具体的施策の明確化をすべきである。自己評価＝自己診断であり、例えば人材育成の邁進・資格などの取得向上・学生の早期ケア・災害および防災マニュアル確立・個人情報徹底化など、評価目標を毎年まとめて重点化し、重点項目診断がしやすいようにしてはどうか。
- ・災害時に一般の帰宅困難者を受け入れる方法を考えて、社会貢献・地域貢献を行えるようにできないか。
- ・学校PRのため、SNSなどで学校活動や資格などを発信する必要がある。
- ・建築・土木の魅力あるアピール方法の検討をすべきである。現場見学会・イベント・コンテストの実施・現場の美化活動・パンフレット・ビデオの作成を通して、第三者に対する建設業のイメージアップを図る。
- ・高校生の建設離れが考えられる。どのようにしたら高校生が建設業に魅力を持つか考える必要がある。その為には、教育機関や行政機関と連携し、現場見学やインターンシップなどのキャリア教育や進路・職業指導などを取り組み、教員と学生が高校に出張して授業や講演を行うことで、建設系学科および建設産業に関心を向上させることが重要である。
- ・普通科高校から建築を目指す難しさがある。生徒に建設業の社会的な役割や物作りの素晴らしさを直接語りかけ、交流するプログラム（キャラバン）をスタートさせる。また、校友会を利用して、実施することも検討する必要がある。
- ・女性の建設業界への進出を強化出来たら良いと思う。
- ・女性参加の課題は、もっと女性が活躍できる建設業を目指す事に尽きる。中・高校時代から現場見学会や先輩の女性の現状報告会や女性活躍フォーラム開催等をして擬態的にアピールする必要がある。
- ・基礎学力の平均化が必要である。
- ・教職員のスキルアップの向上心だけでなく、学生にも向上心を持たせ、いろいろな資格取得を行う気持ちを持たせる。
- ・建築系のインターンシップを受ける学生を増やし、現在の建築の現場を見せる事は大事だと思う。
- ・インターンシップの大きな目標は、「仕事・人生観を作り始める」・「残りの学生生活のすべきことを明確にする」ことにある。「何のために生まれてきて、なぜ働くのかを考え、残りの学生生活で何をしておくべきなのか？」についてじっくり考えることが出来る内容であるべきである。
- ・国際化の取り組みをモンゴル以外にも取り組んでほしい。ベトナムなどは、どうでしょうか。
- ・評価項目に国際交流とあるように、建設関係の専門的な英語（単語）の学習が必要である。
- ・国際化とは、様々な分野で「国境」の意義があいまいになり、各国が他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現代社会においては動かしがたい現象である。国際化とは必ずしも教員や学生の移動、海外校の設立等の国境を越えた活動を伴うものではなく、例えば英語教育の充実や地域研究等、ソフト・ハード両面で自国において国際的な側面を取り入れる事も含んで考えるべきである。

#### 4 今後の具体的な改善方策

- ・平成27年度の自己評価報告書より報告書の書式などの見直しをした。今度も学校関係者評価委員のご意見を参考に、より良い報告書となるよう改善していく。
- ・学校広報として、例年通り費用対効果を考えた高校訪問を徹底するとともに、学校ホームページを見易いようにリニューアルする。また、SNSとしてLINEだけでなくTwitterを活用し、高校生や女性の興味を引くような広報展開をする。
- ・女子高校生が建設業界に興味を持つために「けんせつ小町」をアピールし、パンフレットにて女性の活躍を紹介する。また、オープンキャンパスのスペシャルイベントとして、卒業生（女性）の協力でガールズコースを企画する。女性が建設業界で活躍している事例を女子学生に体験談していただく。
- ・普通科高校などの高校生に建設業の素晴らしさを知っていただくために、オープンキャンパスのスペシャルイベントとして、ビフォーアフターの匠である室田氏（卒業生）の体験談・建築系・土木系の卒業生の体験談・(株)奈良重機工事様の協力による大型重機体験・(株)飯田コンサルタント様の協力による鉄筋探査・不二総合コンサルタント(株)様の協力による三次元計測など、通常の体験授業とは違う内容を体験していただき、直接業界の方の話しを聞くことで建設業に興味を深める企画をする。
- ・建築科・土木科・農業科などの高校には、施工管理講習・測量実習・ISO・職業理解講話などの出前授業を実施することで、高校の学科を活かした進路になるようにする。
- ・基礎学力の平均化については、Thanksドリル（eラーニング）を活用する。担任との温度差をなくすために、年間計画を作成し担当者が管理する。また、AO入学者にも入学前教育として活用する。
- ・建設業で必要最低限の資格については全学生に挑戦させ、就職活動がスムーズにいくようにさせる。その為の補習を行う。
- ・土木系のクラスについては授業の一環でインターンシップを実施しているが、建築系のクラスについては内部進学者（建築ライセンス科・建築ライセンス本科）の確保のため実施は難しい。ただし、就職を希望する学生は希望者のみインターンシップを行う。
- ・建築系・土木系に限らず、定期的に現場見学を実施している。今後も継続していく。
- ・電波学園として、中国4校・韓国5校・台湾2校・モンゴル4校・ベトナム1校・インドネシア1校・イギリス1校の大学や短期大学をはじめとする教育機関と教育連携協定を結び、様々な国際交流を行っている。
- ・提携大学・短期大学および日本語学校からの留学生を受け入れる際、日本語能力試験「N2」以上の資格者であることが入学条件としている。また、本校独自の入学試験や面接、場合によっては在校生と一緒に授業を受けていただくなど、日本語に対応できるか確認させていただき入学させている。